

【特選】

梅雨の空相撲甚句が響かない

島崎 肇

大相撲の野球賭博事件を取り上げた伝説著作が最も多く、入選句も随って多数になったが、その代表として採った。内容・形式とも闊然するところがない風格のある作品。

休場の永谷園がよく目立ち

山口 早苗

讀博覧となった名古屋の土俵は、呼び出しも地味な無地の紋付で、あの華やかな染め袷の衣装の見られないことが、逆に目に行くといい、裏側からの風景を描写。

ブブゼラの耳鳴りがする熱帯夜

鈴木 寿子

サッカーW杯南ア大会の特徴の一つが、かの奇妙な楽器を世界中に知らしめたことだろう。期間中のべつその音を聞きながら、眠れない熱帯夜を幾夜過ごしたことが。

暗がりて手刀を切る大銀杏

塩見 佳代

「暗がりて手」といふ言い方がいかにも巧みであるが、現実には野球賭博を申し出た力士たちのあたまに、外の社会が想像するほど「暗がり」の意識があったかどうか。

禪と結ばれていた黒い糸

島崎 穂花

大相撲の伝統と黒い社会との結びつきは古くからあった。この時代になっても、近代化が遅れている相撲社会には、なほ断ち切れない糸のシッポが残っているのだろう。

本号のメインテーマは、大相撲の

野球賭博事件、サッカー世界選手権南アフリカ大会、それと入れ替わるように行なわれた参議院議員選挙と民主党の大敗、という3大事件で、それ以外はすべてが霞んでしまった。

随時締め切りというのは、あとに大きな事件が起こると、先行句が踏み消されてしまうという欠点がある。しかし、きちんとした句は、定期的に色は褪せても記録のために採って置くのを、建前としている。決して無駄ダマにはならない。

今回のようにテーマが絞られるというのはむしろ特殊に属するが、それがまた時事というものだろう。

5年、10年経って振り返ると、その時代の特色がすぐわかる——そういう欄に育てていきたいと思う。

審判はアナログだったW杯
 黒い影よく写つてゐるたまり席
 お相撲の時間に寝てるNHK
 親方も野球解説うまくなり
 ブゼラをみんなの党がみんな吹き島崎肇
 蒲田発天国行きの劇作家
 同
 床山は鬻より銭をうまく結い
 同
 事件簿の先頭に立つ阿武松
 島崎穂花
 アンテナを小さく畳む名古屋場所
 同
 一夜明け民主を襲う土石流
 同
 抽斗の赤ペン オグリキャップ逝く山口早苗
 はやぶさもソユーズも吊る星祭り
 同
 警察に塩を撒かれる相撲部屋 佐々木福太郎
 パンドラの蓋が転がる国技館
 同
 角界の仕切り直しが終わらない
 塩見佳代
 スタートでもたついているゆうパックス
 同
 ブゼラで始まり蛸で締めくくり
 小林世直士
 惨敗を水に流したゲリラ雨
 同
 なんとなくみんなの党に入れちゃった
 白川楽人

稽古場が鉄火場だった相撲部屋
 田口立吉
 沖縄の床擦れに泣く民主党
 河口世詞
 空席に貧乏神の名古屋場所
 二宮茂男
 アメリカへ普天間を売る首ひとつ
 尾藤一泉
 変動の風に揺れ出す人民元
 吉川一男
 新党へはぐれ浪人志士気取り
 渡辺好文
 遅れ馳せながら民主の衣更え
 小林寿寿夢
 心技体染みついている「ごっつあん」
 川村雄一
 消しゴムを用意しながらマニフェスト
 味野和一柳
 タレントとスポーツマンの顔並ぶ
 岸野たかま
 出直そう相撲甚句と土俵入り
 徳島一郎
 油田爆発これパンドラの箱ですか
 三浦哲夫
 サッカー戦テレビの前のブライイング
 齋木美佐緒
 ぼた餅を美味しく食べる子沢山
 小田由美
 重箱の隅からつつく総理の座
 久保昭二
 甘塩で土俵清める名古屋場所
 川辺大柳
 無駄削減やはり議員が無駄だろう
 ヴォイス
 デパートは中国人に占拠され
 池田クジラ
 ご破算で撒き餌の元利嵩上げす
 佐藤ヒサ